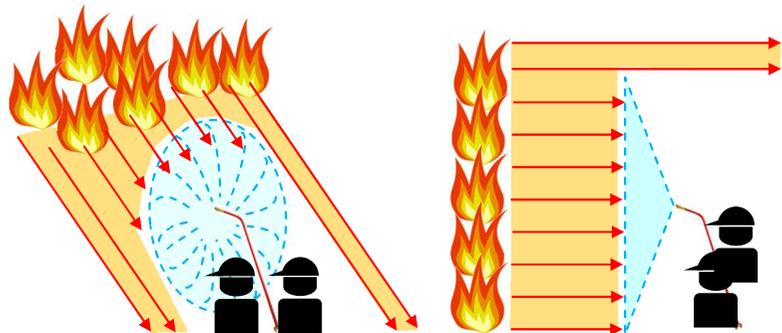


# アプリケーションノズルの使い方

①熱を防ぎつつ火元に近づく



②火を押さえ込む



③狭い箇所の火を消す



※アプリケーションノズルがない場合は、消火ノズルの放水形状を噴霧放水に切り替えて代用する

## フェリー車両甲板火災

# 消火の手引き

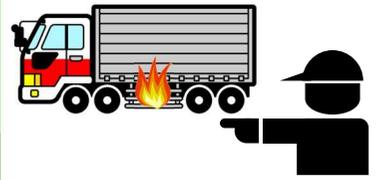
平成28年3月

フェリー火災対策検討委員会



# 火 消 期 初

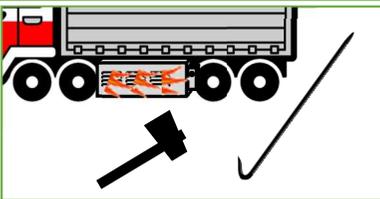
## ①火元の確認



**POINT!!**  
消火活動は必ずペアを組んで行い、単独行動はしない。各ペアは現場指揮者に行動を適時報告する。

- 火勢が強い場合には、初期消火を行わず、本格消火を開始する
- 退路を確認する

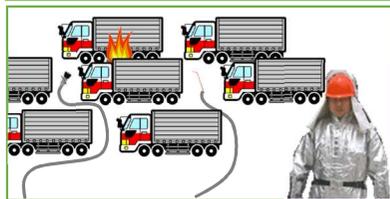
## ②筐体の開放・破壊



- 火災車両が電源に接続されている場合は、電源供給を切る
- 閉囲された筐体の中に火元がある場合は、開放・破壊する

**POINT!!**  
ためらわず開放・破壊する

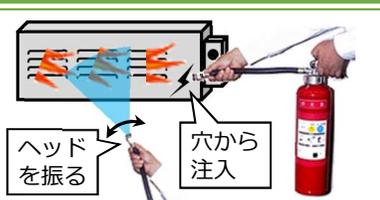
## ②本格消火の準備開始



- 2本以上の消火ホースを火元の近くまで伸ばし、アプリケーションノズルを接続する
- 消防員装具を着用 ・ 排煙を開始

**POINT!!**  
熱、煙、有毒ガスを避けるため、排煙を徹底して、風上で活動する

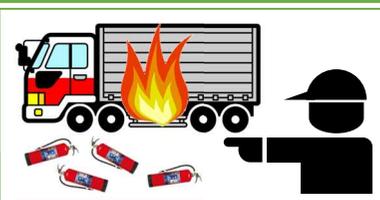
## ③消火器による初期消火



- 風上側から消火剤を放出する
- 閉囲された筐体の中に火元がある場合は、内部に直接、消火剤を注入する

**POINT!!**  
内部の火元に直接消火剤をかける

## ④初期消火の成否判断



- 消火器を使用しても火勢が強まってくなど、消火器による鎮火ができないと思われる場合は、ためらわず本格消火に移行する

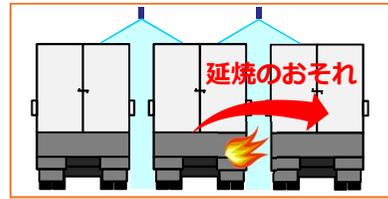
**POINT!!**  
火勢が徐々に強まっている場合は、ためらわず本格消火を開始する

## ⑤本格消火の開始



- 車両甲板全域で水を使用するために、すべての車両への電源供給を断つ

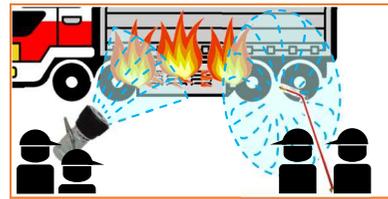
## ⑥水噴霧装置の作動判断



- 他の車両に火が燃え移りそうな場合には、水噴霧装置を作動して延焼を防止する

**POINT!!**  
散水や水蒸気の発生により視界が悪くなることに注意して、状況に応じて適時、作動判断をする

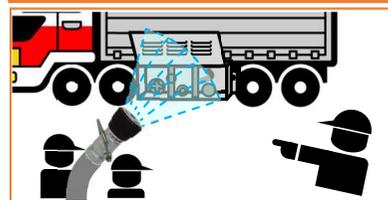
## ⑦放水による本格消火



- アプリケーターノズルと消火ホースを活用して、風上側から徐々に火元に近づき、火を押さえ込む
- 他の車両に火が燃え移らないよう、周囲の車両にも放水する

**POINT!!**  
安全を最優先して消火断念を判断

## ⑧鎮火の確認



- 鎮火後も、火元に水をかけて再発火を防止する
- 少なくとも12時間は見張りをを行い再発火に備える

## ⑧消火断念・退避



- 火勢が拡大して消火が困難と判断した場合は、退避する
- 煙に注意して、口元を抑え、姿勢を低くして逃げる
- 放水継続、排煙停止、密閉により、火災の拡大防止を図る

～注意書き～

この手引きは、消火手順の一例を示したものです。火災時には、乗客及び乗組員の人命の安全を最優先し、現場の判断に従ってください。